

社 報



周囲に合わさない

仕事が少なく・・・

仕事量が少なく、当社の状況も厳しい状態が続いています。景気回復の道は見えきませんし、悪い状況は続くのだろうと予想されます。

仕事が十分でない状況は、過去にもありましたが、今回は特にひどいように思います。

なんとか受注を確保しようと思いますが、即効薬もなく苦慮しているのが実情です。

申し訳ありません。



仕事は人がするもので、1人の力には限界があります。大きな仕事は、大勢が寄って、力を合わせて達成できるものです。

ですから仕事を進める上で、人間関係が大事で、周囲との調和を図ることは大切なことです。

力を合わせることは良いことです。単純な例で言えば、大きな荷物を持ち上げる時に、1人で持ち上げられない時、大勢が寄って力をあわせれば、大きな荷物も持ち上がります。

この状況をもう少し考えてみると、力の合わせ方が大切であることがわかります。皆で力を合わせて、大きな荷物を持ち上げようとする時には、皆が普段以上に頑張っていて、力を出し合っています。ここが重要で、皆が普段以上の力を出すからこそ意義があるわけです。

このような状況では、ほとんどの人が力を発揮します。ごくまれには、力を出さずに、協力する素振りを見せる人もいますが、まあ、例外中の例外でしょう。

力を合わせることに、同調することは良く似ていますが、少し違います。

仕事は日常的に行います。

日常から、普段以上の力を発揮してということはありません。マラソンのスタートから全力疾走で走るようなものですから、上位どころか完走もできなくなります。

日常業務は全力疾走ではありませんから、ちょっとこのくらいとか、今日できることでも明日にしようとか、少し時間は早いけど休憩にしようとか、そういう行動を取る人が出てきます。

1人が頑張っていると、今日はそのくらいにして・・・、などと楽な同調を求める行動もあるでしょう。

人は1人で行動している時より、大勢で行動している時の方が、横着であるような気がします。

赤信号・みんなで渡れば恐くない、と言いますが、それほど極端な例はないにしても、そのような事例が、日常的にならないように注意すべきです。日頃の小さな積み重ねが、人の生き方に影響すると思うのです。



当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

安全帯の点検を

9月11日、東京都内の改修現場で、足場を組み立てる際に、墜落災害により被災者が死亡するという事故があったようです。

被災者は、使用年数が5年を経過した安全帯を使用していたが、ロープが切断し、8.8m下のコンクリート面に墜落したものです。

考えられる原因は、

- ① 安全帯の点検が行われなかった
- ② 点検は実施したが、適切な部品の交換が行われなかった。

などが、考えられます。安全帯も仕事の道具です。時には点検を行い、不安を感じた場合は、職長に報告して、部品を交換するようにお願いします。

ご安全に！

2009年 安全成績

■現場災害 H21.1.1-H21.11.10	
休業災害	----- 1
不休災害	----- 1
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 2
■交通災害 H21.1.1-H21.11.10	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 2
合計	----- 2